

2. 自然増減・社会増減の影響度の分析

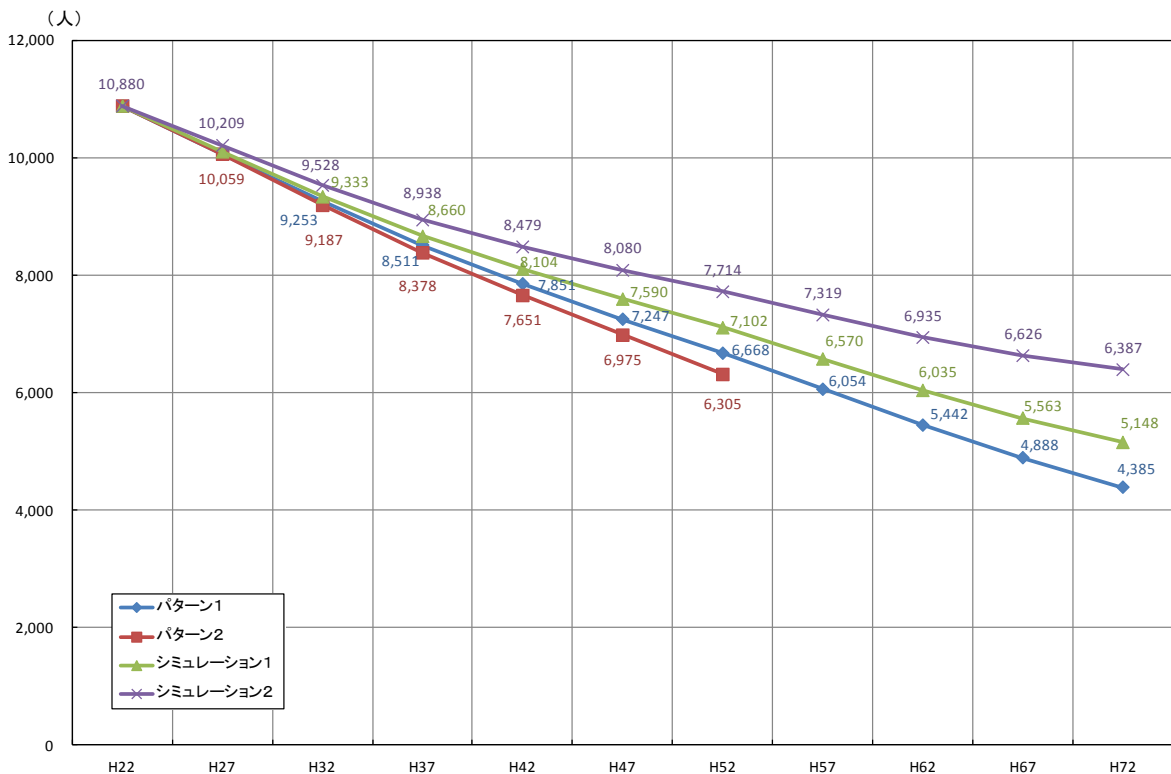
将来人口に影響を及ぼす自然増減（出生、死亡）や社会増減（人口移動）の影響度を分析するため、人口推計のシミュレーションを行った。

(1) シミュレーションの結果による影響度

表 2.3 パターン・シミュレーションの推計方法

パターン	推計方法
パターン1 (社人研)	全国の移動率が今後一定程度縮小すると仮定した推計
パターン2 (日本創生会議)	全国の総移動数が H22~27 年の推計値と概ね同水準でそれ以降も推移すると仮定した推計
シミュレーション1	パターン1をベースに、合計特殊出生率が人口置換水準（人口を長期的に一定に保てる水準の 2.1）まで上昇したとした場合のシミュレーション
シミュレーション2	合計特殊出生率が人口置換水準まで上昇し、かつ人口移動が均衡した（転入・転出数が同数となり移動がゼロとなる）とした場合のシミュレーション

図 2.4 パターン別推計の比較



参照：国提供ワークシートからの推計値

シミュレーションの結果から、パターン1とシミュレーション1を比較し、将来人口に及ぼす出生の影響度を分析した。また、シミュレーション1とシミュレーション2を比較することで、将来人口に及ぼす移動の影響度を分析した。

影響度はそれぞれ全国の分析結果を踏まえた以下の5段階で評価した。

<p>■「自然増減の影響度」</p> <p>＜シミュレーション1の平成52(2040)年の総人口÷ パターン1の平成52(2040)年の総人口＞の数値に応じて、 以下の5段階に整理。 「1」=100%未満、「2」=100~105%、「3」=105~110%、 「4」=110~115%、「5」=115%以上の増加</p> <p>■「社会増減の影響度」</p> <p>＜シミュレーション2の平成52(2040)年の総人口÷ シミュレーション1の平成52(2040)年の総人口＞の数値に応じて、 以下の5段階に整理。 「1」=100%未満、「2」=100~110%、「3」=110~120%、 「4」=120~130%、「5」=130%以上の増加</p>

表 2.4 自然増減・社会増減の影響度

分類	計算方法	津南町の 影響度	新潟県の 影響度
自然増減の 影響度	シミュレーション1のH52の推計人口：7,102 パターン1のH52の推計人口：6,668 $7,102 / 6,668 = 107\%$	3	3
社会増減の 影響度	シミュレーション2のH52の推計人口：7,714 シミュレーション1のH52の推計人口：7,102 $7,714 / 7,102 = 109\%$	2	2

参照：国提供ワークシートからの推計値

この結果、本町は、自然増減の影響度が「3（影響度 105~110%の増加）」、社会増減の影響度が「2（影響度 100~110%の増加）」となっており、自然増減の方が本町の人口により大きな影響を与えていることがわかる。このため、出生率の上昇につながる施策を優先させることが、人口減少度合いを抑えること、さらには歯止めをかける上で効果的であると考えられる。